

野々市市子ども読書活動推進計画(第二次)

(平成27年3月策定)

の評価結果に関する資料

平成31年 3月 作成

野々市市教育委員会

「野々市市子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成27年3月策定） の評価について

（1）評価の根拠

市内の子どもの読書に関わる部署・機関・施設の施策及び事業の充実に役立てるため、計画の進捗状況を定期的に点検する必要があります。また、計画最終年次の前には計画の評価を行い、次期計画にその結果を反映させます。（本計画「5. 推進体制」より抜粋）

（2）評価の目的

評価の結果を、各部門の今後の施策・事業の充実に役立てていく。また、第三次計画策定の際（平成31年度実施予定）の参考にする。

（3）評価の体制及び流れ

生涯学習課が、各部署・機関・施設が個別に作成した進捗状況チェックシートを取りまとめる。その資料をもとに、野々市市子ども読書活動推進連絡会が内部評価を行う。内部評価の結果は市立図書館協議会が行う外部評価の資料とする。

（4）評価の方法

- ① 生涯学習課が作成する様式（アンケート形式）に、各部署・機関・施設の担当者が進捗状況を記載する。（H28年度より毎年実施）
- ② 内部評価は、進捗状況の取りまとめ資料をもとに、野々市市子ども読書活動推進連絡会の委員が、施策について評価する。
- ③ 外部評価は、内部評価結果について、市立図書館協議会委員が意見を述べる。

（5）評価の公開

外部評価の結果は市ホームページ等を通じて公開する。

評価資料の見方

◆施策評価の算定方法

各実施主体における取り組みを実施した施設の割合を「取り組みの達成度」（100.0pt満点）とし、「取り組みの達成度」の合計÷実施主体数 の値を「施策の達成度」（100.0pt満点）として下表の評価区分に当てはめる。

◆評価の区分

施策の達成度	95.0pt～100pt	順調
施策の達成度	85pt～94.9pt	おおむね順調
施策の達成度	75pt～84.9pt	やや遅れている
施策の達成度	0pt～74.9pt	遅れている

(例)

第2期 幼児期(概ね3～5歳)

施策の方向性

- ①家の外で、読書を楽しむ体験の提供
- ②読書に親しむきっかけづくり
- ③家庭での読み聞かせの推奨

施策の評価 (H29年度)
順調
遅れている
順調

②の施策が、下表のE、F、G、Hの取り組みによって、達成された度合を示す。

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	3歳児健診の中で、子どもが本とふれ合う時間を設ける	保健センター
B	①	おはなし会を行う	児童館 子育て支援センター
C	①	幼児向けのおはなし会を行う	市立図書館
D	①	読み聞かせをする	保育園
E	②	子どもの読書に関連した行事を取り入れる	生涯学習施設
F	②	子どもが参加する行事に関連した本を提供する	生涯学習施設
G	②	幼児の来館につながるイベントを工夫する	市立図書館
H	②	夢のある本の展示を工夫する	市立図書館
I	③	絵本の貸し出しを行う	保健センター
J	③	クラス絵本の活用や園文庫の貸し出しを行う	保育園

※ 子育て支援センターのうち、2歳児以下のみ対象の施設は集計から除外した
 ※ 中央保育園は0～2歳児対象のため、集計から除外した

H29年度中に、Eの取り組みを、生涯学習施設4施設のうち2施設が(50%)が実施したため、取り組みの達成度は50.0ptとなる。
 Fの取り組みは4施設のうち1施設(25%)が実施したため、取り組みの達成度は25.0ptとなる。
 GとHの取り組みは市立図書館(1施設のみ)が実施したため、取り組みの達成度は、いずれも100ptとなる。

275.0pt(取り組みの達成度の合計)÷4(実施主体数)
 =68.8pt → 施策の達成度

(1) 発達段階に応じた家庭、地域、学校等における取り組みの推進

第1期 乳幼児期(概ね0～2歳)

施策の方向性

施策の方向性	施策の評価 (H29年度)
①家庭での読み聞かせの推奨	順調
②読書に親しむきっかけづくり	順調
③各家庭に本がある環境づくり	順調
④すべての親子への働きかけ	順調
⑤子どもの本を利用できる地域の施設の利用促進	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	乳幼児向けのおすすめの本のリストを作成する	市立図書館
B	①	絵本の貸し出しを行う	保健センター
C	①③	クラス絵本の活用や園文庫の貸し出しを行う	保育園
D	①②③④	7か月児健康相談に合わせて、ブックスタートを行う	保健センター 市立図書館
E	②	読み聞かせをする	保育園
F	⑤	おはなし会を行う	児童館 子育て支援センター
G	⑤	親子を対象としたおはなし会を開催する	市立図書館

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

- ・本計画における子どもの発達段階全5期の中で、長い読書人生の始まりである第1期の取り組みこそが最も重要であると考えます。
- ・保護者の関心の度合いが、子どもの読書環境に大きく影響するものであることから、乳幼児期における読書の重要性を保護者に知ってもらうことが何より大切である。
- ・地域で絵本を利用できる施設をまとめたリーフレットを、母子手帳とともに保護者に配布する取り組みは素晴らしい。配布物は、年月を経て無くされる可能性があるため、数か月～数年後にまた配布するとより効果があると思われる。
- ・保護者が子どもの読書活動推進に積極的に取り組めば、子どものためになるだけでなく、保護者の成長にもつながると考える。

施策の方向性

	施策の評価 (H29年度)
①家の外で、読書を楽しむ体験の提供	順調
②読書に親しむきっかけづくり	遅れている
③家庭での読み聞かせの推奨	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	3歳児健診の中で、子どもが本とふれ合う時間を設ける	保健センター
B	①	おはなし会を行う	児童館 子育て支援センター
C	①	幼児向けのおはなし会を行う	市立図書館
D	①	読み聞かせをする	保育園
E	②	子どもの読書に関連した行事を取り入れる	生涯学習施設
F	②	子どもが参加する行事に関連した本を提供する	生涯学習施設
G	②	幼児の来館につながるイベントを工夫する	市立図書館
H	②	夢のある本の展示を工夫する	市立図書館
I	③	絵本の貸し出しを行う	保健センター
J	③	クラス絵本の活用や園文庫の貸し出しを行う	保育園

※ 子育て支援センターのうち、2歳児以下のみ対象の施設は集計から除外した

※ 中央保育園は0～2歳児対象のため、集計から除外した

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・保護者が保育園等に子どもを預けることによる、子どもの読書活動への無関心が現れはじめる時期なのではないだろうか。乳幼児期同様に、読み聞かせ等での保護者の関わりが大切な時期である。

・保育園の絵本の貸出はすべての園で行われている。借りるのは保護者なので、保護者の関心を高めるとい意味で、保育園からの働きかけは十分行われていると考えられる。

・第2期の子どもがどのような本を読めばいいのか、その目安となる情報を提供する取り組み(ブックリスト等)が期待される。提供する情報には、「よく利用される本」と「おすすめしたい本」の両方があると良い。

・生涯学習施設で、職員が単独で取り組みを実施することは、人員の確保やノウハウの面でかなり困難であると理解できる。その助けとなるのが図書ボランティアで、現在、生涯学習施設では、市立図書館に属する図書ボランティアが活発に活動している。ボランティアのモチベーションを保つため、例えばイベントの参加者が少ない時があっても、そこで読書の楽しさに気付く子どもは必ずいるはずだから、継続していくことは大事だと、市立図書館スタッフが根気よく伝え、育成していくことが必要である。

・市内の石川県立大学や金沢工業大学の学生に、得意なテーマ(花、昆虫、科学等)を生かした読み聞かせをしてもらう取り組みが期待される。

施策の方向性

施策の方向性	施策の評価 (H29年度)
①読み進める力、読解力の向上	順調
②図書館及び図書館資料の利用方法の指導	順調
③読書の質の向上	順調
④読書する時間の確保	順調
⑤読書の苦手意識の解消、本を読む達成感・充実感を感じさせる働きかけ	おおむね順調
⑥図書館等への来館促進	おおむね順調
⑦本を提供する側に立つ機会の提供	順調
⑧家庭で読書する機会の推奨	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①⑤	司書、教員、ボランティアが読み聞かせをする	小学校
B	①②	図書館及び図書館資料の利用方法を指導する	小学校
C	②	「図書館を使った調べ学習コンクール」に参加する	小学校
D	③	「ののいち読書100選」リストを活用する	小学校
E	④	市立図書館を訪問する機会を設ける	放課後児童クラブ
F	①④	「朝読書」を推奨する	小学校
G	①④	「読書週間」「ノーテレビ・ノーゲームデー」「ののいち子ども読書の日」などの読書強化期間を設ける	小学校
H	⑤	子どもが参加する行事に関連した本を提供する	生涯学習施設
I	⑤	おはなし会を行う	市立図書館
J	⑤	夢のある本の展示を工夫する	市立図書館
K	⑤	学年や読書力に応じた本を紹介する	市立図書館
L	⑤	学習に役立つ本・情報を提供する	市立図書館
M	⑤	図書館の展示を工夫する	小学校
N	⑤⑧	「ののいち読書ノート」を活用する	小学校
O	⑤	一定期間内に読む冊数の目標を立てる	小学校
P	⑥⑦	図書委員に図書館業務を体験させる	小学校
Q	⑥	おはなし会を行う	児童館
R	⑥	子どもの読書に関連した行事を取り入れる	生涯学習施設
S	⑥	子どもが興味を持つイベントを行う	市立図書館
T	⑥	図書館だよりを子どもの身近な施設で配布する	市立図書館
U	⑥	図書館でイベントを行う	小学校
V	⑥	図書館だより、リーフレット、校内放送を活用した広報を行う	小学校
W	⑦	年長の子どもが、年少の子どもに読み聞かせをする	小学校
X	⑧	「家読」 ^{ウチドク} を推奨する	小学校

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・市内の2つの大学と連携した取り組み(自然、生物、プログラミング関連)が期待される。行事に関連した図書を紹介するなどして、読書に結びつけることができる。

・小学校の取り組みは申し分ない。生涯学習施設では人手不足、ノウハウ不足により、取組が十分出来ておらず、図書ボランティアの活躍が期待されるところであり、市立図書館の一層の支援が望まれる。

・外国語に関心を持ち始める年代であり、市立図書館が新たに取り入れた英語のおはなし会は、とても良い取り組みだと思う。

・市立図書館(カレード)で行われた「100だてのいえ」のダンボールで家をつくるワークショップがとても良い内容だった。また、廃材で生き物を作る「もののいきもの展」は、県内の特別支援学校の児童が見学に訪れ、制作体験も行って、教員も高く評価していた。こうした優れた取り組みを、実施主体側から学校に向けて、どんどん発信してほしい。

第4期 青年前期(概ね13～15歳)

施策の方向性

	施策の評価 (H29年度)
①読書する時間の確保	順調
②的確な資料提供	おおむね順調
③図書館及び図書館資料の利用方法の指導	順調
④読書の質の向上	順調
⑤図書館等への来館促進	やや遅れている
⑥本を提供する側に立つ機会の提供	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	「朝読書」を推奨する	中学校
B	②	子どもが参加する行事に関連した本を提供する	生涯学習施設
C	②	若者特有の様々なニーズに合った本のリストをつくる	市立図書館
D	②	学習に役立つ本や情報を提供する	市立図書館
E	②	相互貸借を活用して、広い範囲から本を届ける	市立図書館
F	②	ICT技術を活用した情報収集を手助けする	市立図書館
G	②	児童書、一般書の中から、若者向けの本を紹介する	市立図書館
H	②	本や情報の提供の迅速化を図る	中学校
I	②	蔵書にない本のリクエストに応える	中学校
J	③	図書館及び図書館資料を活用する学習を行う	中学校
K	③	「図書館を使った調べ学習コンクール」に参加する	中学校
L	④	「ののいち読書100選」リストを活用する	中学校
M	⑤	映像・音楽・スポーツ等を取り入れた若者向けのイベントを開催し、参考になる本を紹介する	市立図書館
N	⑤	図書館でイベントを行う	中学校
O	⑤	図書館内外の展示を工夫する	中学校
P	⑤	図書館だよりを発行する	中学校
R	⑥	図書委員に図書館業務を体験させる	中学校
S	⑥	職場体験学習の受け入れを行う	市立図書館

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・中学校では、生徒に対し十分な働きかけが行われていると考える。読書の時間の確保が難しい中、学校の働きかけによる朝読、家読の効果は大きいと思われる。

・市立図書館や生涯学習施設において、読書離れが進む第4期の子どものための行事を実施する難しさは想像できる。第3期までとは異なり、子どもが働きかけを受ける側ではなく、働きかける側になる取り組みが望まれる。自分の意思を表現する機会が、自己肯定感を持つことにつながり、大人になるための良い体験となる。子どもたちは、年少者への読み聞かせ、ビブリオバトル、おすすめ本のイラスト、POP作成等、それぞれの得意な事を生かして、発信する側に立つことができる。

・職場体験学習で、中学生がブックスタートの現場に出向くと、職場の大人たちの中でのふるまい方や、赤ちゃんや保護者との接し方など、その場にいるだけで多くの学びが得られる。赤ちゃんに絵本を読み聞かせるまでは難しくても、幼少期に読んでもらった思い出の絵本と再び出会うことに、大きな意義があると考えられる。

施策の方向性

施策の方向性	施策の評価 (H29年度)
①情報収集の支援	順調
②的確な資料提供	やや遅れている
③図書館への来館促進	やや遅れている
④図書委員会の活動の活性化	順調
⑤本を提供する側に立つ機会の提供	やや遅れている
⑥読書する時間の確保	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	ICT技術を活用した情報収集を手助けする	市立図書館
B	②	子どもが参加する行事に関連した本を提供する	生涯学習施設
C	②	児童書、一般書の中から、若者向けの本を紹介する	市立図書館
D	②	若者特有の様々なニーズに合った本のリストをつくる	市立図書館
E	②	相互貸借を活用して、広い範囲から本を届ける	高等学校
F	②	蔵書にない本のリクエストに応える	高等学校
G	②	本や情報の提供の迅速化を図る	高等学校
H	③	映像・音楽・スポーツ等を取り入れた若者向けのイベントを開催し、参考になる本を紹介する	市立図書館
I	③	図書館内外の展示を工夫する	高等学校
J	③	校内放送や図書館だよりを活用した広報を行う	高等学校
K	③④	生徒による手づくりPOPを展示する	高等学校
L	④⑤	園児や児童に読み聞かせる機会を設ける	高等学校
M	⑤	図書ボランティアとして活動できる機会を提供する	生涯学習施設
O	⑤	ボランティアとして活動できる機会を提供する	市立図書館
P	⑤	職場体験学習の受け入れを行う	市立図書館
Q	⑤	ビブリオバトルを行う	高等学校
R	⑥	校内一斉の読書行事を行う	高等学校

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・働きかけを行うには、最も難しい年代であるように感じられるが、市内高校では、生徒に対しさまざまな働きかけが行われており、なかでも、POPづくり、ビブリオバトル、園児への読み聞かせなど、高校生が自ら発信する取り組み、働きかけの担い手になる取り組みが多く行われているところがすばらしい。取り組みが地域に公開されており、その出来栄の良さや年々スキルアップしていることを感じ取れた。こうした活動がきっかけとなり、将来のカレードの利用にも結びつくと考えられる。

・学校外で図書ボランティア活動をしてみたいと考える高校生も多いとのことである。その意欲を育てていかなければならない。

・市立図書館で、高校生の活動を紹介できると良い。展示場所を提供し、内容は高校生に任せる形式が望ましい。活動の成果を認められることが、子どもの喜び、成長につながる。また、市立図書館で、若者向けのイベントが、職員(大人)が企画したものではなく、若者の企画・運営により実施されることに期待する。

・平成29年度までの評価には、新市立図書館が開館したことの効果がまだ表れていない。これまではハード的な事情で実施できていなかった取り組みが新図書館では実現するはずだ。今後に大いに期待したい。

施策の方向性

施策の方向性	施策の評価 (H29年度)
①図書館資料の利用支援	遅れている
②子どもの本が利用できる施設の利用支援	遅れている
③学習の一環として、市立図書館を利用する機会の提供	順調

整理記号	方向性	取り組み	実施主体
A	①	対面朗読を行う	市立図書館
B	①	手話や外国語を取り入れたおはなし会を開く	市立図書館
C	①	障がいの状態に応じた図書館資料リストを作成する	市立図書館
D	②	窓口で、障がいや他言語に応じた円滑なコミュニケーションを図る (※)	市立図書館
			保健センター
			高等学校
			小学校
			中学校
			保育園
			子育て支援センター
			児童館
			生涯学習施設
E	②	図書館資料の配列をわかりやすくする (※)	市立図書館
			小学校
			中学校
			高等学校
F	③	学級・学校訪問を受け入れる	市立図書館

※障害のある子どもの施設利用が無く、その機会がなかったという回答は、0ptとして計上した

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・今後、市内に住む外国人の増加が予想される。日本語を上手く話せない子どもがいじめにあうといったことも懸念される中、そうした子どもたちへの働きかけの充実が求められる。国内で入手すると高価な外国語の児童書が、図書館で読めると助かる。ブックスタート事業で、外国人保護者のために、多言語に対応したパンフレットを用意していることは、とても良いと思う。

・障害のある子どもの状態は様々であり、地域の機関として働きかけを行っていくには、知識が必要である。専門機関である特別支援学校とのコミュニケーションを図り、どのような関わり方をすれば喜ばれるのかを教わりながら行っていくのが良いと考える。

・新市立図書館が出来たので、子どもたちがバス等で見学に来やすくなった。図書館に足を運ぶことは、本を読むこと以上に大切だと考える。

・障害のある子もない子も、混ざり合って育っていく形が理想と考える。専門的な取り組みは出来ることから行っていくとして、まずは、障害のある子どもが、おはなし会等の行事等に気軽に参加したくなるような雰囲気作り、障害のある子が来ても他の子どもたちが驚かない雰囲気作りをしていくことが大切ではないかと考える。

(2)子どもの読書環境の整備充実

ア 新しい市立図書館の整備

施策の評価 (H29年度)
順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	人口に適した施設面積、蔵書冊数、スタッフ数を備える	市立図書館
B	さまざまな年齢層及び障がいのある利用者に配慮し、すべての人に使いやすい施設設計を行う	市立図書館
C	おはなし会や、親子の読み聞かせができるスペースを設ける	市立図書館
D	学校図書館支援の拠点となる場所を設ける	市立図書館
E	ボランティア活動の拠点となる場所を設ける	市立図書館
F	最新のＩＣＴ技術を設備に取り入れる	市立図書館
G	児童向けの本を充実する	市立図書館
H	外国語絵本を収集する	市立図書館
I	点字併記の絵本、録音資料の収集、拡大読書器の提供を行う	市立図書館
J	学校図書館向けの団体貸出サービスを行う	市立図書館
K	学校図書館連絡車を運行する	市立図書館
L	市内の施設やイベント会場に、関連のある本を配本する	市立図書館
M	市内全域から子どもが安心して来館できるよう、交通安全対策を図る	市立図書館
N	特別な支援が必要な子どもが、図書館サービスを利用できる手段を講じる	市立図書館

イ 子どもの本を利用できる市内の施設の環境の整備充実

施策の評価 (H29年度)
遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
A	乳幼児や障がいのある子どもにとっても利用しやすい施設や設備の整備を行う	市立図書館 学校教育課 保健センター 高等学校 保育園 子育て支援センター 児童館 生涯学習施設
B	絵本ＢＯＸハウスを利用した子どもの本の貸し出しを行う	保健センター
C	親子が読書を楽しめる場所を提供する	児童館 子育て支援センター
D	絵本ＢＯＸハウスを運行する	子育て支援センター
E	図書室（図書コーナー）の機能を充実する	生涯学習施設
F	園児が楽しみながら読書できる場所を設ける	保育園
G	園文庫やクラス絵本を充実する	保育園
H	機能性の高い図書館システムを備える	小学校（学校教育課）
I	学校図書館図書標準の蔵書数を達成する	小学校
J	学級・学年文庫、クラス単位の団体貸出を行う	小学校
K	子どもの身近な場所に本を置く	小学校
L	機能性の高い図書館システムを備える	小学校（学校教育課）
M	学校図書館図書標準の蔵書数を達成する	中学校
N	機能性の高い図書館システムを備える	高等学校

ウ 司書の配置と能力の向上

施策の評価 (H29年度)
順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	市立図書館及び学校図書館の司書が、長期にわたり勤務できる体制を整える	教育委員会
B	業務量に応じた適正人数の司書の配置を行う	教育委員会
C	学校図書館司書と司書教諭の連携の円滑化を図る	学校教育課
D	市立図書館司書、学校図書館司書、司書教諭の資質向上のための研修の機会を持つ	市立図書館 学校教育課

エ 図書ボランティアの育成と活用

施策の評価 (H29年度)
やや遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
A	図書ボランティアを活用した催しを行う	子育て支援センター 児童館 生涯学習施設 保育園 小学校
B	日常的に図書ボランティアが活動できる場を提供する	子育て支援センター 児童館 生涯学習施設 保育園 小学校
C	図書ボランティアを養成する講座を開く	市立図書館
D	ボランティアを生かす活動の場を提供する	市立図書館
E	ボランティア活動に役立つ本を十分に備える	市立図書館
G	ボランティアによる読み聞かせの機会を設ける	市立図書館
F	読み聞かせボランティアを行う市民に、必要な冊数を必要な期間、貸し出すサービスを行う	市立図書館
H	ボランティアを活用し、子どもの本を利用できる地域の施設の活性化を図る	市立図書館
I	ボランティアの特技を生かし、障がいのある子ども向けの資料を作成する	市立図書館
J	ボランティアの特技を生かし、外国語や手話を使った読み聞かせを実施をする	市立図書館
K	ボランティア活動の成果を地域に発表する場を設ける	市立図書館

オ 家庭・地域・学校等の連携強化

施策の評価 (H29年度)
遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
A	司書連絡会を定期的に行う	市立図書館
B	子どもの読書を通じて、保護者やボランティアが交流できる場を設ける	市立図書館
C	市立図書館・学校図書館間の蔵書検索を行いやすくする	市立図書館 小学校（学校教育課） 中学校（学校教育課） 高等学校
D	読書に関連した行事を共同で行う	市立図書館 保育園 小学校 中学校 高等学校

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・コンパクトシティである本市では、すべての施設を同じように整った状態にする必要はないと考える。すべてを完璧にしようとすれば、人員の面でも予算の面でも負担が大きくなりすぎる。市立図書館がしっかりと機能している前提で、図書館以外の実施主体は、足りない部分を市立図書館の協力により運営していくのが効率的である。市立図書館が、それぞれのニーズに合わせていかに支援していくかが重要で、そのために各機関とのコミュニケーションを活発化していく必要がある。

・施設の整備に関しては、概ね必要な整備がすでに行われ、現時点においてそれ以上の改善を要しない状態であると理解した。今回の評価方法では、施設や設備環境が既に整っていて、特に不足が無い場合、当該年度に新たな取り組みをしていない施設があると、達成率が下がってしまう。もう出来ているのだから、この部分は高く評価すればよい。基本施策(2)に関して、1次評価で「遅れている」となっているものが目立つが、実態としては遅れていないと考える。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発

ア 子どもと保護者を対象とした働きかけ

(ア) 各機関・施設から子どもへの働きかけ

施策の評価 (H29年度)
やや遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
—	①自由に使って遊べる“自分の絵本”を手渡す	保健センター 市立図書館
—	②知ることの楽しさや物語のおもしろさを味わえる本を読み聞かせる	子育て支援センター 児童館 生涯学習施設 市立図書館 保育園 小学校
—	③さまざまなテーマを扱ったたくさんの良い本に触れさせる	保健センター 子育て支援センター 生涯学習施設 市立図書館 保育園 小学校 中学校 高等学校
—	④本をつくる活動を体験させる	児童館 生涯学習施設 小学校
—	⑤読書に親しむ習慣を、早いうちに身に付けておく大切さを伝える	小学校
—	⑥自分より年上の子どもが読書を楽しむ姿や、本を使って学ぶ姿を見せる	児童館 市立図書館 小学校
—	⑦好きな本を他者に紹介する体験をさせる	小学校 中学校 高等学校
—	⑧読みたい本を自分で発見する喜びを体験させる	生涯学習施設 市立図書館 小学校 中学校 高等学校
—	⑨読書が自身の課題解決に役立ち、将来の可能性を広げるものであることを伝	中学校 高等学校
—	⑩読書を通して社会に参加する喜びを体験させる	生涯学習施設 市立図書館 中学校 高等学校

(イ) 各機関・施設から保護者への働きかけ

施策の評価 (H29年度)
遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
A	出産前の保護者を対象に、読み聞かせの大切さを伝える	保健センター 市立図書館
B	子どもの読書に関連した保護者向けの学習の機会を設ける	保育園 小学校 中学校
C	保護者が図書ボランティアとして活動する機会を提供する	保育園
D	保護者が子どもの本を選ぶ際の支援をする	市立図書館
E	地域の子どもの本を利用できる施設の一覧を提供する	市立図書館
F	保護者の子どもの読書への関心を高める催しを行う	市立図書館

(ウ) 保護者から子どもへの働きかけ

(データなし)

イ 市民全体を対象とした取り組み

(ア) 野々市版「子ども読書の日」の実施

施策の評価 (H29年度)
概ね順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	7月23日を「ののいち子ども読書の日」と定める	教育委員会
B	「ののいち子ども読書の日」を中心とした「ののいち子ども読書チャレンジ週間」を設ける(※)	市立図書館
C	子どもの読書を活発化する取り組みやイベントを行う	児童館 生涯学習施設 市立図書館 小学校 中学校 高等学校
D	大人を含む市民全体が、子どもの読書に関心を持つ取り組みを行う	保健センター 児童館 生涯学習施設 市立図書館
E	家庭での読書を推奨する取り組みを行う	保育園 小学校

※「ののいち子ども読書チャレンジ週間」の名称は用いず、「ののいち子ども読書の日」を含む7月～8月にかけて取り組みを行うこととした。

(イ) ののいち子ども読書活動4か条による啓発

施策の評価 (H29年度)
遅れている

整理記号	取り組み	実施主体
A	ホームページや市広報、ポスター・チラシ等を活用し、各機関・施設及び広く市民に伝える	市立図書館
B	「ののいち子ども読書活動4か条」を活用した取り組みを実施する	保健センター 児童館 子育て支援センター 生涯学習施設 保育園 小学校 中学校 高等学校 市立図書館

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

・啓発の取り組みを実施しなかった理由として、人手不足、ノウハウ不足を挙げる実施主体が多くあった。その要因には計画の周知、説明不足が考えられ、市立図書館の支援によって、大部分が解消できると考える。

・子どもが読書のきっかけを掴むのは、いろいろな形があってよい。読書感想文で目を開く子、調べ学習に力を注ぐ子、工作で頑張る子等々。夏休みという長い自由な時間を過ごす中で、子どもが図書を上手く利用できるような図書館であってほしい。図書館は本を読むだけの場所ではない。求める情報をコーディネートしてくれる場所であり、人と人とのつながりが生まれる場所でもある。

・市の調べ学習コンクールの出品作品数が大幅に伸びていて、また出来栄も大変素晴らしい。できれば市立図書館でも展示して、多くの人に見てもらいたいと思う。

4 重点プロジェクト

(ア)読書の時間創出プロジェクト

- a 内容
- ・「ののいち子ども読書の日」に子どもが読書に親しめるイベントを行う
 - ・保育園内、小学校内で読み聞かせを行う
 - ・朝読書に取り組む
 - ・校内読書強化期間を設ける

施策の評価 (H29年度)
順調

b 目標指標

					実績
整理記号	目標指標	策定時 (H26年度)	H31年度 目標値	実施主体	H29年度
A	「ののいち子ども読書の日」に読書に関する行事を実施する施設数	13施設	16施設	保健センター	1施設
				児童館	5施設
				生涯学習施設	4施設
				保育園	9施設
				市立図書館	1施設
				小学校	5施設
				中学校	2施設
				高等学校	1施設
				A 合計	28施設
B	「ののいち子ども読書の日」関連イベント参加者数 (※)	1,400人／年	1,600人／年	市立図書館	154
				小学校	840
				中学校	711
				B 合計	1705人

※図書展示の参加者数は計測できないため、含まれていない

(イ)家庭での読書推奨プロジェクト

- a 内容
- ・ノーテレビ・ノーゲームデーに、家庭での読書を推奨する
 - ・保護者が関与する家庭内読書を推奨する
 - ・ノーテレビ・ノーゲームデーに、市立図書館の貸出制限冊数を緩和する

施策の評価 (H29年度)
遅れている

b 目標指標

					実績
整理記号	目標指標	策定時 (H26年度)	H31年度 目標値	実施主体	H29年度
A	ノーテレビ・ノーゲームデーに合わせて園文庫を貸し出す園の率	43% H26年度実績	70%	保育園	53%
B	ウチドク家読に参加した親子の率	—	50%	小学校	50%
C	ノーテレビ・ノーゲームデーにおける貸出人数及び貸出冊数の増加率	—	前日比貸出人数 20%増	市立図書館	0.5%増
			前日比貸出冊数 50%増		7.9%増

(ウ)絵本との再会プロジェクト

- a 内容
- ・将来の子育てを担う10代の若者が、絵本を手にする機会を設ける
 - ・中学生や高校生が、小さな子や高齢者などに読み聞かせを行う機会を設ける
 - ・もうすぐ親になる市民に、子どもの読書の大切さを伝える
 - ・出産間もない市民が、すぐに読み聞かせを始められる絵本を手渡す

施策の評価 (H29年度)
概ね順調

b 目標指標

整理記号	目標指標	策定時 (H26年度)	H31年度 目標値	実施主体	実績
					H29年度
A	市立図書館が中学校・高等学校へ貸し出す絵本の数	—	150タイトル／年	市立図書館	50タイトル
B	次世代に伝えたい子どもの本の展示で使用する絵本の数	—	100タイトル／年	市立図書館	117タイトル
C	出産前の保護者に対する啓発リーフレットの配布数	—	800枚／年	保健センター	648枚
D	ブックスタートパック受け渡し率	97% H25年度実績	100%	市立図書館	98.1%

(エ)図書ボランティア活性化プロジェクト

- a 内容
- ・図書ボランティアを育成する
 - ・図書ボランティアに活動の場を提供する
 - ・市立図書館が図書ボランティアの活動拠点を整備する
 - ・読み聞かせに使える市立図書館の絵本や紙芝居を充実する

施策の評価 (H29年度)
やや遅れている

b 目標指標

整理記号	目標指標	策定時 (H26年度)	H31年度 目標値	実施主体	実績
					H29年度
A	ボランティアの新規育成数	25人／年 H26年度実績	30人／年	市立図書館	0人
B	ボランティアに活動の場を提供した回数	292回／年 H25年度実績	400回／年	児童館	108回
				生涯学習施設	58回
				市立図書館	34回
				小学校	115回
				B 合計	315回

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

- ・市立図書館(カレード)が率先して企画展示を行い、それを各施設に巡回する方法ならば、あらゆる実施主体で、予算をかけなくても取り組みが一つできる。市立図書館の支援こそが重要である。
- ・市立図書館が出来たこともあり、図書ボランティアはこれから本格スタートである。意欲ある若者、特に大学生の発掘に努めてほしい。「ボランティア活動とは、自分たちから何かを発信できる場である」そのような募集の仕方をしてもらいたい。
- ・市立図書館(カレード)は、開館後1年間の入館者数が50万人を超えたことが評価されたが、これからは、内容の充実を目標にしていくことが大切である。次年度以降の取り組みに大いに期待している。

5 推進体制

(1)市子ども読書活動推進連絡会の位置づけ

施策の評価 (H29年度)
順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	市子ども読書活動推進連絡会の会議を年に1回以上開催する	市立図書館
B	連絡会に参加する部署・機関・施設間の協力体制を強める	市立図書館

(2)点検と評価

施策の評価 (H29年度)
概ね順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	年度ごとに計画の進捗状況を点検する	市立図書館 教育委員会 学校教育課 保健センター 高等学校 放課後児童クラブ 小学校 中学校 保育園 子育て支援センター 児童館 生涯学習施設
B	計画の自己評価を行う	関係部署・機関・施設
C	外部委員による計画の評価を行う	市立図書館
D	子どもの読書活動の実態を把握するための調査を行う	市立図書館

(3)市子ども読書活動推進計画の周知

施策の評価 (H29年度)
順調

整理記号	取り組み	実施主体
A	市広報、ホームページ等を通して、計画の趣旨を広く伝える	市立図書館
B	市内の関係部署・機関・施設の職員に、計画の趣旨を説明する	市立図書館

野々市市子ども読書活動推進計画(第二次)全体について

外部評価委員(市立図書館協議会)の意見

【計画全体について】

- ・市内では、子どもの読書活動推進の取り組みが、大変幅広く、多数行われていると感じた。
- ・新市立図書館(学びの杜のいち カレード)の開館を最も評価する。図書館と市民学習センターの機能が融合した複合施設であることから、図書を借りる人だけでなく、市民学習センター利用者を巻き込んだ催しが実施でき、相乗効果から施設がますます活性化していく。旧図書館時には不十分だった各種の取り組みが、新図書館では全面的に改善、充実されると期待している。
- ・新市立図書館の支援を受けての、読書推進の取り組みの活性化に期待する。展示や読み聞かせボランティアの支援がその一例である。新図書館が出来たことの影響は、図書館自体に留まらず、市内の他の子どもの読書に関わる施設等にも波及し、今後、子どもの読書環境の向上という形で、次第に現れてくるものと思われる。
- ・計画策定後に、法律の改正や諸事情の変化により、現状に合わなくなった取り組みが見られた。次期計画策定時に見直しをすべきである。

【評価の仕方について】

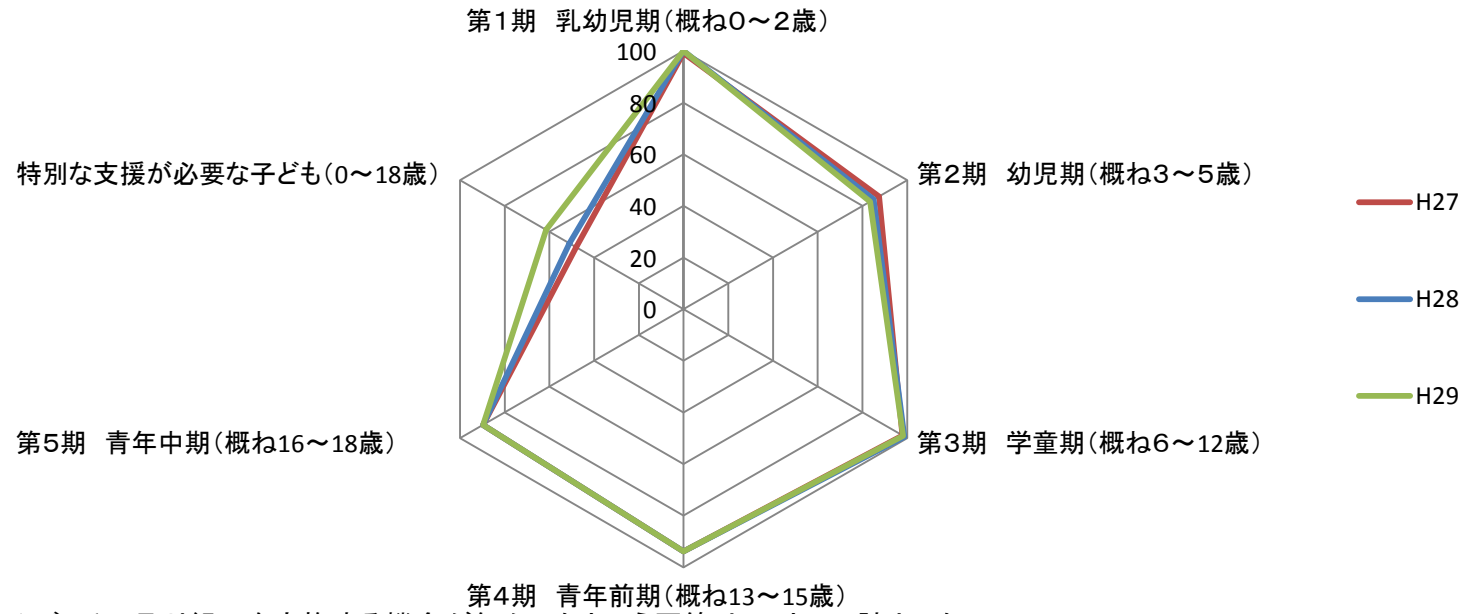
- ・評価の対象となる期間が平成27年度から29年度までだったため、新市立図書館が出来て良くなった部分が、まだ評価に現れてきていないのが非常に残念に思われた。特に平成29年度は、3か月間の休館を含み、さらに新図書館の準備や開館直後の混雑も重なって、十分な取り組みが出来ない状態にあったことで、市立図書館及び、市立図書館所属のボランティアが取り組みを担う生涯学習施設が、施策の評価ポイントを下げる要因となっている項目が目立った。平成30年度以降は、数値的にもより良い成果が現れると期待している。
- ・1次評価において、評価方法の拙さにより、本来はもっと高く評価されるべきなのに、低く評価されている項目が目立った。評価指標が低く出た項目であっても、高く評価してよいと考える。

基本施策の評価

(1)発達段階に応じた家庭、地域、学校、社会全体における取り組みの推進

基本施策(1)の評価の算定方法・・・施策の達成度の合計÷施策数

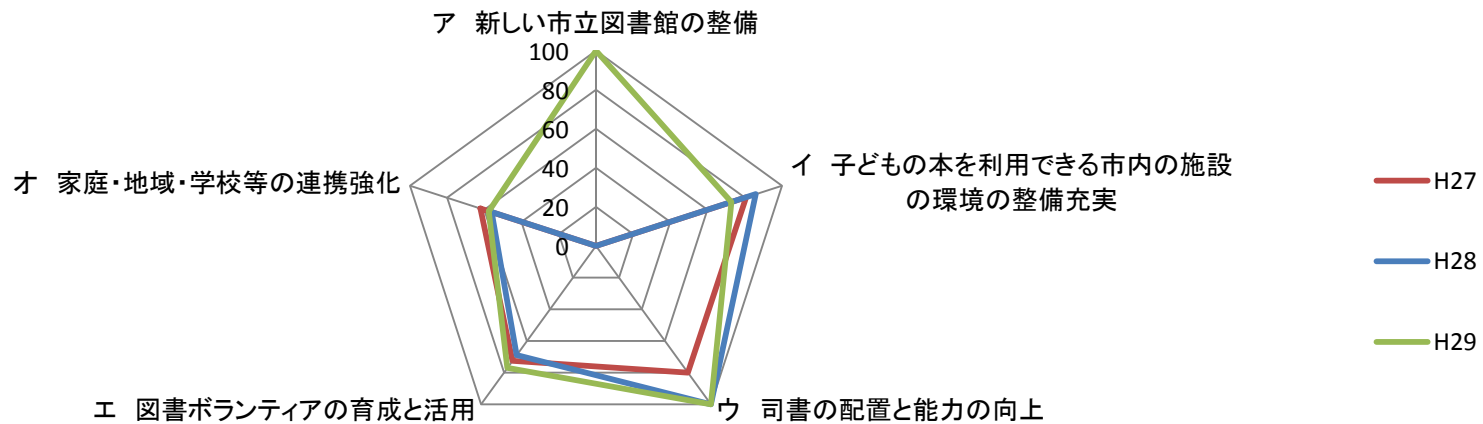
基本施策(1)の評価	
第1期 乳幼児期(概ね0～2歳)	順調
第2期 幼児期(概ね3～5歳)	おおむね順調
第3期 学童期(概ね6～12歳)	順調
第4期 青年前期(概ね13～15歳)	おおむね順調
第5期 青年中期(概ね16～18歳)	おおむね順調
特別な支援が必要な子ども(0～18歳)	遅れている



※ 無回答及び、その取り組みを実施する機会が無かったという回答は0ptとして計上した。

(2)子どもの読書環境の整備充実

基本施策(2)の評価	
ア 新しい市立図書館の整備	順調
イ 子どもの本を利用できる市内の施設の環境の整備充実	遅れている
ウ 司書の配置と能力の向上	順調
エ 図書ボランティアの育成と活用	やや遅れている
オ 家庭・地域・学校等の連携強化	遅れている



(3)子どもの読書活動に関する啓発

基本施策(3)の評価	
ア 子どもと保護者を対象とした働きかけ	
(ア)各機関・施設から子どもへの働きかけ	やや遅れている
(イ)各機関・施設から保護者への働きかけ	遅れている
イ 市民全体を対象とした取り組み	
(ア)野々市版「子ども読書の日」の実施	おおむね順調
(イ)ののいち子ども読書活動4か条による啓発	遅れている

